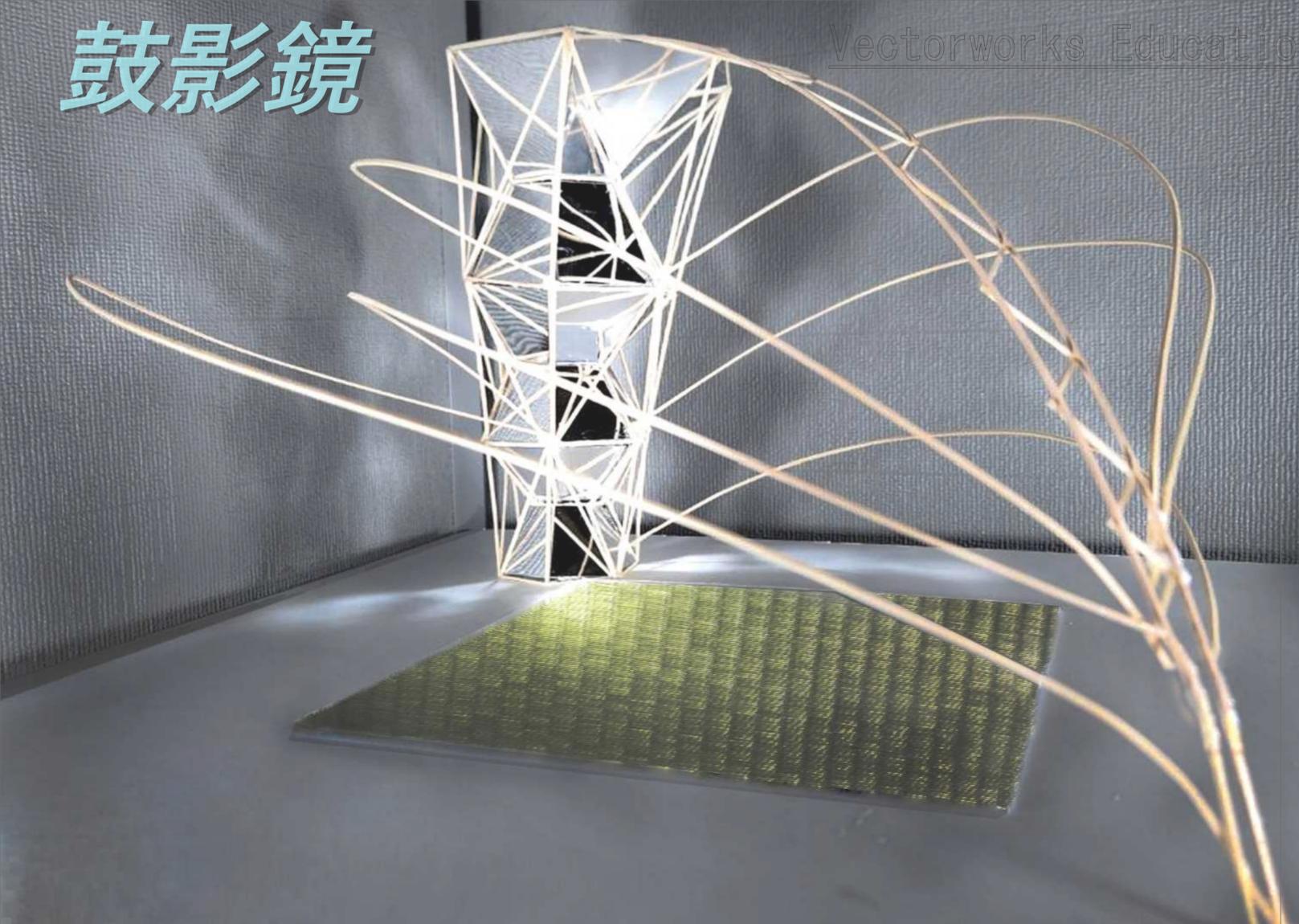


鼓影鏡



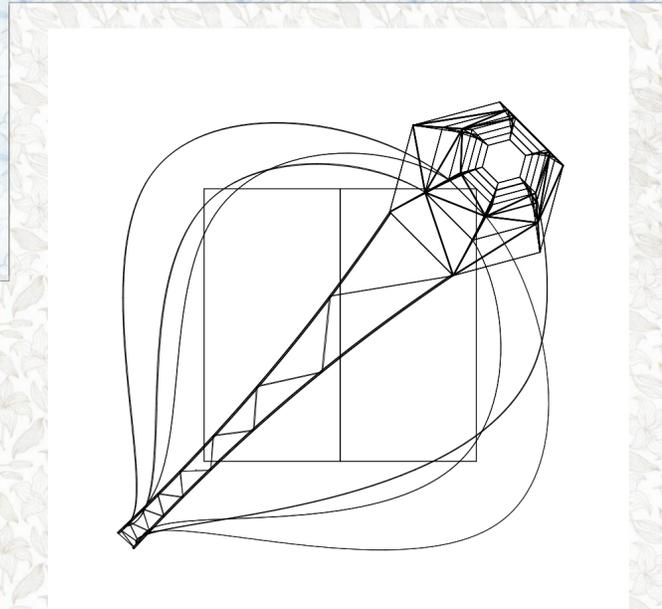
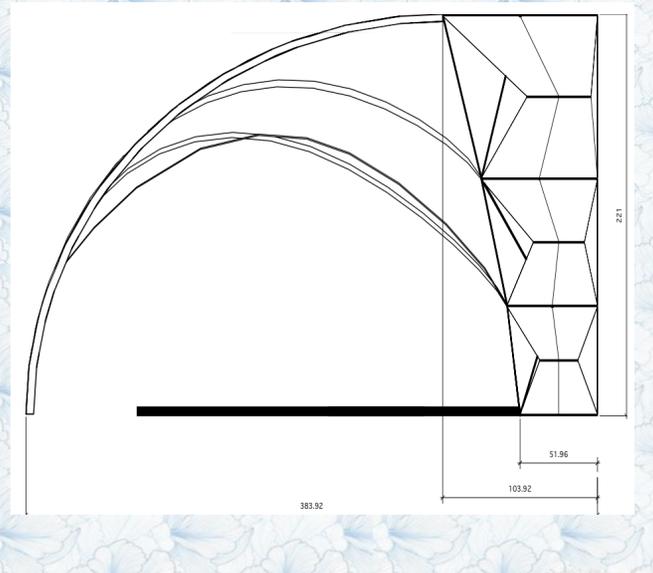
茶室外の観衆からの全体像



茶室内から見たアーチ部

04.断面構成

アーチ部はそれぞれ高さが異なり、にじり口・茶道口の機能を備えている。塔は上にかけて茶室側に傾く形になっているため空間を覆うようになり、さらに観衆は茶室内の様子を鏡越しに鑑賞できる。



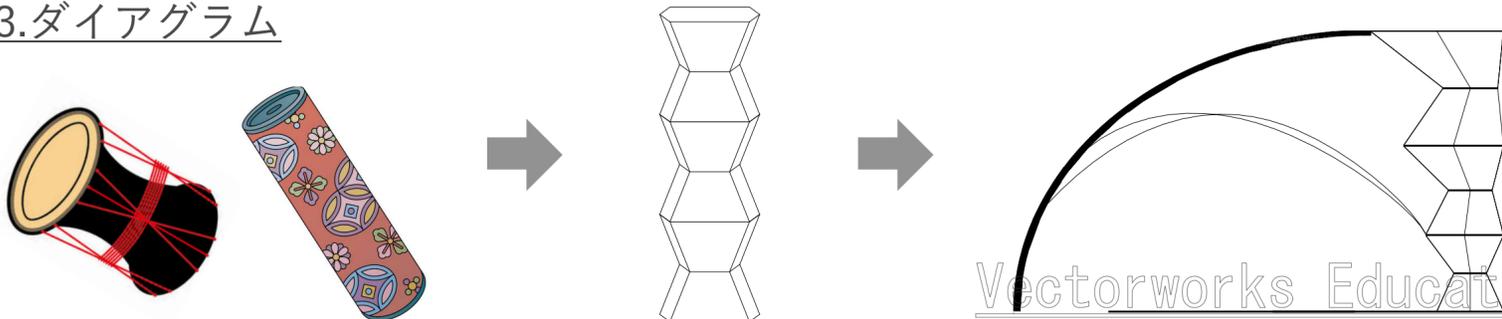
01.コンセプト

「嬉笑」というテーマから多くの人が集い、笑顔になれる「祭り」を連想した。祭りの華やかさを表現する万華鏡と鼓をモチーフにした塔がシンボルとなっていて、さらに茶室において目を引き、最初に鑑賞するものである掛け軸にも見立てた。茶室中にいる人にとっても、見ている人にとっても楽しめる空間を提案する。

02.設計趣旨

塔全体が鏡で構成されていて茶室内の様子を反射してみることができる。大きな構造物のため圧迫感を感じやすいが、鏡とそれに映るトラス構造によって奥行きが広く見え、窮屈な印象を与えないよう工夫した。茶室を覆う曲線の木材は橋をイメージしており、亭主・正客と観衆を繋ぐ意味を担っている。

03.ダイアグラム



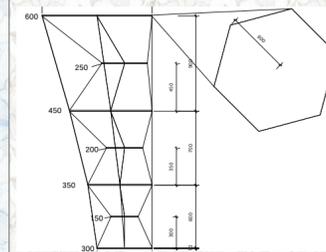
05.平面構成

塔から伸びる竹は対角線上の一点に収束し楕円形の空間を構成している。また、最上部から伸びるアーチはトラス構造を用いて塔との連続性を持たせている。

06.素材選定

- ・1cm角の集成材（塔の枠組み）強度を確保
- ・ベニヤ板（ミラーシートの背面）薄く、加工が容易
- ・竹（茶室を囲うアーチ）しなりやすい
- ・ミラーシート（塔の表面）

07.構造計画



六角形が上部に行くにつれて茶室寄りに徐々に大きくなっていくような構造。

重心が茶室側に傾いてしまうが、塔の頂点に張り巡らされたトラス構造により躯体が安定している。

